

## 地球温暖化防止対策の推進

～二酸化炭素等の排出量の削減～

## 【重点分野の目標の達成状況】

## ■二酸化炭素等温室効果ガス排出量の削減

【目標：排出量を1990年レベルに比べ6%削減】

2007年度の市内の温室効果ガスの総排出量は、基準年と比べ10.1%の減少

本市では、2004年3月に改訂した「川崎市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき地球温暖化防止への取組を推進しています。また、2008年2月には「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略」(CCかわさき)を公表し、全市をあげて地球温暖化対策に取り組むこととしています。

## 再生可能エネルギー拡大の取組

川崎市と東京電力(株)は、臨海部の浮島、扇島地点において、国内最大級(約2万kW)の太陽光発電所を建設するメガソーラー計画を共同で推進していくことを平成20年10月に発表しました。

- 国内最大級の約2万kWの発電所の設備概要  
年間発電量約2,100万kWh(一般家庭約5,900軒分)  
年間約8,900tのCO<sub>2</sub>排出量削減効果
- 普及啓発及び体験機能を備えた太陽光発電等のPR施設整備
- 川崎市は、太陽光発電所の一部土地の提供をはじめ、本計画を通じた太陽光発電の普及啓発活動を推進
- 東京電力は、電力供給設備としての太陽光発電所の建設及び運営
- 太陽光発電所の着工は、平成22年度、運転開始は平成23年度の予定



メガソーラー完成イメージ図

この計画を大きな契機として、メガソーラーを中心とした臨海部の優れた環境技術を国内外に広く発信するための拠点を整備し、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの導入や普及啓発等の取組みを、これまで以上に拡大していきます。

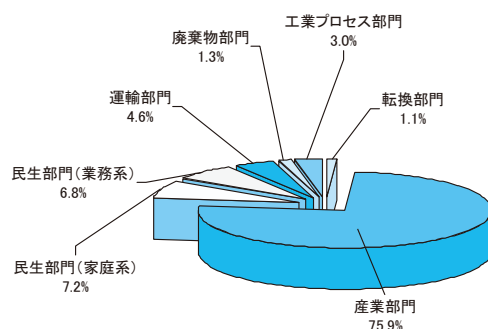
2007年度温室効果ガス排出量(速報値：二酸化炭素換算)

	排出量(万トンCO <sub>2</sub> )	基準年度 ※増減比較(%)
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	2566.2	-3.9
メタン(CH <sub>4</sub> )	2.0	52.8
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	9.9	26.8
ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)	8.0	-68.9
パーフルオロカーボン類(PFCs)	37.0	122.1
六ふっ化硫黄(SF <sub>6</sub> )	4.4	-97.8

基準年度※：二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は1990年度、その他は1995年度

## 市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比

産業部門が約76%と大きな割合を占めていますが、これは、川崎市が京浜工業地帯の中核として、鉄鋼業や化学製品製造業等の産業が集積し、首都圏の生産拠点都市として機能しているという地理的な特性を反映しているものです。



市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比